

開山慧日聖光国師遺誠

そ かくらう ひり

まご

のぞ

夫れ学道の士は、先ず須く身口意を慎護り、貪瞋癡を屏除くべし。名を視ること浮雲に等しく、利を棄つること糞土の如く、言を出すや、詐偽虚妄を祓わんことを要し、行を立つるや、隱実端潔を凶らんことを貴ぶ。

おん

たとい世間種々の違順の境界に逢うとも、一々夢幻空華の中に収在め、然る後、己事未だ明らかならざるを以て、常に自ら勉励して、剪爪の暇を容れず、志力を奮起し、精進上に精進を加え、勇猛更に勇猛を添えて、朝參暮請、行究坐究、一旦漆桶連底に脱し去って、始めて本来の風光を見ん。是れ解脱の活衲僧と謂わんや。

しつうれんてい

(和訳)

禅の道を学ぼうという人は、まず身体、言葉、こころを慎むことを継続し、むさぼり、いかり、愚かさを取り除きなさい。世の名声を見ることは、空の浮き雲と同じように(むなししいものと思い)、富を捨てる事は糞のように(嫌い)し、言葉を発するときは、偽りや妄想を除き、何かを行うときは、穩やかに、はつきりと、きっぱりおこなうようにしようとすることを、尊ぶ。

たとえ世間のもるもるの順境、逆境に遭っても、それをゆめまぼろしのごとくだと思い、そうやってその後、「本来の自己とは何か」ということが明らかでないことを思い、いつも(ひとに命ぜられるのではなく)おのれの意志で努め励み、爪を切るひまも惜しみ、志の力を奮い起こし、努力の上にも努力を加え、勇敢の上にも勇敢に、朝も夕も参禅し、行いも坐禅も極め尽くせば、ある時、桶の底が抜けるように、(妄想の世界を)脱却して、始めて(この世界の)ほんとうの姿を見るだろう。これを(本当に)解脱した生きた禅僧と言うのではないだろうか。